



## 市の木 梅

昭和47年（1972年）10月24日市制施行を記念し制定。  
南部丘陵地に広がる青谷の梅林では、春になると一面に漂うかぐわしい香りが、わたしたちの心をなごませてくれます。



## 市の花 花しょうぶ

昭和57年（1982年）11月7日市制施行10周年を記念し制定。  
豊かな地下水に恵まれ、古くから栽培されている“花しょうぶ”は京阪神随一の生産高を誇り、多くの人びとに親しまれています。



## 市の鳥 しらさぎ

平成19年（2007年）11月7日市制施行35周年を記念し制定。  
『しらさぎ』は、城陽市全域で見ることができ、本市の歴史や文化に非常に関わりの深い鳥です。また、『しらさぎ』の存在は、環境保全や自然と人との共生を実現するシンボルとなり、その白く優雅に舞う姿は、活き生きと未来に羽ばたいていく城陽市をイメージさせます。

## 城陽市歌

明るくのびのびと  
作詞 龍村 孟雄  
作曲 中原 都男

1. うめかあーる やまべにのべに ちやの  
みどりほのか にも ゆーる もろ ひとのここ  
ろのすあか うつくしきわれらのまち  
よ ひかりあれ ひかりあれ ひかり あ  
れ じょうよう うつくしまち

2. 松あおき 鴻の巣山に  
鳥啼きて 明るき陽ざし  
こだまする 樋のひびきに  
ひらけゆく われらのまちよ  
栄あれ 栄あれ 栄あれ  
城陽 ひらけゆくまち

3. 砂しろき 木津の流れに  
黄金なす 稲穂のみのり  
山の幸 野の幸さわに  
ゆたかなる われらのまちよ  
恵あれ 恵あれ 恵あれ  
城陽 ゆたかなるまち

昭和34年（1959年）2月15日制定  
（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に伴い、  
町歌を市歌とした）



## 城陽市章

城の文字と太陽のイメージを合わせたマーク。

町制施行4周年を機に制定されました。

昭和30年（1955年）4月26日制定

（昭和47年（1972年）5月3日市制施行に  
伴い町章を市章とした。）

## 城陽市民憲章

かぐわしい梅の香りと清らかな水のわがふるさとを  
愛し、先人の遺した文化を育み、平和でかがやかしい  
城陽の未来を創造するために  
わたくしたち城陽市民は

- 一、自然を生かし 美しい緑を育てましょう
- 一、教養を深め 豊かな文化をつくりましょう
- 一、心身を鍛え 働く喜びを大切にしましょう
- 一、隣人を愛し ふれあいの輪を広げましょう
- 一、秩序を守り やすらぎのまちを築きましょう

昭和57年（1982年）11月7日制定  
（市制施行10周年を記念し制定）

## 城陽市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、核兵器の廃絶と軍備の縮小は、全人類ひとしく希求しているところである。

わが国は、唯一の被爆国として、非核三原則の堅持はもとより、再び戦争による惨禍を繰り返してはならない。

国際平和年にあたり、わが城陽市は、憲法の精神に基づいて自由と平和を愛し、思想・信条を越えて、永遠の平和都市であることをここに宣言する。

昭和61年（1986年）12月23日宣言



城陽市役所庁舎 南玄関前

平成 25 年 7 月 25 日 (木)

城陽市役所集合

出発 (小学生 6 年生 27 名・中学生 3 名 合計 30 名)



昼食



平和記念資料館見学



資料館地下展示場見学





被爆者講話（植田規子氏）



旅館 到着



入浴  
夕食等

ミーティング



消 灯

（各自持ち寄った折鶴を束ねてメッセージを書きました）

平成 25 年 7 月 26 日 (金)

旅館出発



広島平和記念公園到着

原爆死没者慰霊碑



広島二中原爆慰霊碑



原爆の子の像



(みんなで持ち寄った折鶴を捧げました)

原爆ドーム



爆心地



国立広島原爆死没者追悼平和祈念館



広島風お好み焼き体験（昼食）



広島市出発



城陽市役所帰着



解散





## 目次

もう二度と…	青谷小学校	6年	一樹 果乃子	1
広島で学んだ事	青谷小学校	6年	新井 智葉	2
広島派遣団に参加して	青谷小学校	6年	塚本 琴音	3
広島への思い、願い	青谷小学校	6年	南口 海音	4
広島への思いの変化	青谷小学校	6年	尾瀬 茉亜紗	5
広島に行つて	青谷小学校	6年	米田 綺良	6
広島派遣団に参加して	青谷小学校	6年	堀口 蒼斗	7
広島派遣団に参加して	今池小学校	6年	萩原 蓮太	8
戦争の恐ろしさと平和の大切さを知つて	寺田小学校	6年	西 優菜	9
広島派遣団に参加して	寺田小学校	6年	福田 藍子	10
戦争のない社会にするために	寺田西小学校	6年	山下 征哉	11
広島派遣団に参加して	寺田南小学校	6年	後藤 美結	12
広島派遣団に参加して	寺田南小学校	6年	綱井 優芽香	13
戦争の恐ろしさ	寺田南小学校	6年	沼田 琉聖	14
原爆のおそろしさ	寺田南小学校	6年	石塚 知帆	15
広島に行つて	寺田南小学校	6年	太田 悠貴	16



戦争と平和

寺田南小学校 6年 土居千晴 17

家族・世界・命

富野小学校 6年 為房宏樹 18

広島・原爆の恐ろしさ

富野小学校 6年 市原誠也 19

広島派遣団に参加して思った事

富野小学校 6年 新田徹平 20

広島派遣団に参加して

富野小学校 6年 島本巧 21

戦争のおそろしさ

深谷小学校 6年 原口優花 22

広島に行つて

深谷小学校 6年 高木杏菜 23

広島派遣団に参加して感じたこと

深谷小学校 6年 三崎小奈津 24

戦争・核兵器のおそろしさ

深谷小学校 6年 松尾夏歩 25

派遣団に参加して

古川小学校 6年 服部亜美 26

広島に行つて

古川小学校 6年 有田美結 27

広島派遣団に参加して

西城陽中学校 1年 板坂輝 28

広島から世界へ平和に願いを

南城陽中学校 2年 宮崎風花 29

広島派遣団に参加して

南城陽中学校 2年 山内実咲 30



## もう二度と…



青谷小学校 6年

### 一 樹 果乃子

戦争はもう二度と起こってほしくありません。

七月二十五日・二十六日、広島派遣団に参加しました。参加したのは、友達が行くと言っていて興味があったからです。

一日目、約五時間バスに乗り広島へと行きました。とてもキレイだけど、原爆ドームとか少し怖いと聞いていてドキドキしていました。行ってみると本当にキレイで原爆が落ちたのが嘘のようでした。初めに平和記念資料館へ行きました。皮膚がただれた人の模型や黒こげになったお弁当、人が座っていた影のある石段など、見ていて悲しくなるようなものがたくさん展示されていました。その中でも忘れられないのは、言葉を失うような残酷な音声ガイドです。例えば、「○○さんはトマトが食べたいと言いました。お母さんが買出しに出かけて帰って来ると○○さんは亡くなっていました。」などです。丁寧に説明される音声ガイドの中には聞いていられないものがたくさんありました。

その後、被爆した方の話を聞きました。生まれた時から戦争していたので、国が戦争しているのが普通だったそうです。戦争は国の人々全員が巻き込まれると教えてくださいました。

先生と西の山に逃げ、建ちかけの小屋へ避難しました。先

生はその小屋で寝ると言ったが寝る人はいませんでした。そして、家に行きました。いろんな人がたくさん亡くなっていて、男か女かもわからなかった。家に帰ろう、家に帰ろう。それだけを思って、何を見ても、何も思いませんでした。あの時は人間ではなかった。あの日のこと、次の日のことを忘れないで生きてきた、と思い出したくないと思うのに、丁寧に詳しく教えてくれました。そして、最後に、戦争をした歴史があるが、戦争をしない記録をのばしてほしい。そのため、いろんな人に戦争のことを伝えて、生きる知恵にしてほしいとおっしゃいました。

私は戦争のことをたくさんの人に伝えていきたいと思います。そして、もう二度とこの恐ろしい戦争が起らないようにしたいです。今、私は豊かに暮らしているけれど、戦争があった頃はずっと貧しい暮らしだった。だから今、幸せに生きていることをありがたく思い、命を大切にしないといけないと思います。



## 広島で学んだ事



青谷小学校 6年

新井 智葉

私が広島で学んだ事は、戦争のおそろしさ、核兵器で苦しむ人々の事、親をなくしてしまった子ども達の事、また、今がとても平和であるということです。

平和記念資料館では、原爆が落とされたことでできたきのこ雲の写真、放射能によって黒くなった雨、また、その雨にぬれて黒くなった服、どれも残酷でした。その中でも一番心に残っているのが、ひどいやけどで皮膚がたれ下がってしまっている人々の展示、やけて真っ黒になった三輪車、お弁当です。三輪車は、今にもこわれてしまいそうです。見ているだけでも、心が痛みました。

平和記念公園では、みんなで折りづるをささげました。私達だけでなく、城陽のいろんな人達も折ってくれました。みんな同じ気持ちなんだなと思いました。

原爆ドームも見に行きました。これは、

「核兵器廃絶と人類の平和を求める誓いのシンボル」

として、ユネスコの世界遺産一覧表に登録されました。くずれ落ちたがれきが、今もそのまま残されています。この建物を見るだけで、原爆のおそろしさが伝わってきます。

私の願いは、

「世界中の戦争がなくなること」

「核兵器がなくなること」  
です。

この願いが叶うように、私も努力していきたいです。広島派遣団に参加できて、本当によかったです。



## 広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

塚本琴音

私は友達に誘われこの広島派遣団に参加しました。私は友達に誘われたけど行けないと思っていました。理由は三十六人までで無料だし、青谷小学校の人はけっこう申し込みをすると聞いていたので、申し込みが多ければ抽選だと聞いていたので、広島派遣団に入れるとは思いませんでした。それで広島派遣団に応募してることすら忘れてた時、ならいごとから帰ってきてお父さんから、「じゃじゃーん」と言っていて一つのふうとうをわたされました。私あてのふうとうなんて初めてで、しかもうれしそうに言っていたので何だろうと思って見たら広島派遣団と書いてありました。その時は、すごくうれしかったです。そのあと友達にふうとう来た？って聞くと来たって言うていました。

そして広島に行く日がやってきました。朝は友達のお母さんに送ってもらいました。少し進んだ所で私がカメラを忘れていたのに気づき、もうスピードで家に帰ってもらい、お母さんに電話して用意してもらっておいたカメラをすぐに取りに行きました。そして再び出発しました。もうスピードで行ってギリギリまにあいました。そして市役所に着いて注意点やいろいろなことを聞きました。そしていよいよ出発。バスの席がすごく楽しみでした。でも一人席になってしまいま

した。それで一人でおかしを食べてねむたかったけどねれなかった、ずーっと窓から外を見ていました。すごくひまだったけどガイドさんがクイズやビンゴといろいろと楽しませてくれて、ひまやったのがだいぶましになりました。

そのまま広島に着き、平和記念資料館に着きました。そして平和記念資料館の中でほうしゃせんにあたっていて黒くなったお弁当やほうしゃせんにあたってポロポロになった三りん車とヘルメット、それだけを見ても言葉はでなかった。ちよっと気分が悪くなりそうだったけどだいじようぶだった。原爆があった時からずっと残っていることもすごいなあと思いました。

私は広島派遣団に行つて戦争はいやだ、おきてほしくないと思いましたが。私は広島のことをあまりしらなくてもっとしりたいなあと思つて行つたけど、思つてたよりかんたんではなくむずかしかったけど帰りの広島焼きはすごくおいしかったです。





## 広島への思い、願い



青谷小学校 6年

南 口 海 音

広島に行くまで広島の世界史については、戦争で原爆が落ちた都市というくらいしか知りませんでした。

姉が六年生の時に広島派遣団に参加したことがあり、応募をすすめられ興味を持ち参加しようと思いました。そして広島に行く姉の言う通り本当にたくさんのお話をし、得をしました。それを今から思い出してみよう。

最初に見学した平和記念資料館には黒こげになった弁当や三輪車、くつ、8時15分で止まった時計、やけどをした写真などどれも残こくなものばかりでした。原爆が落とされる前は多く建っていた家が落とされた後は跡形もなく焼け野原となりました。20万2千人という多くの人が亡くなり、ウラム爆弾というたった一つの爆弾でこんなにも恐ろしいことになるのはアメリカは爆弾の科学が進んでいたんだとわかりました。

次に平和記念資料館地下展示場に行きました。そこには原爆で暑くて苦しむ人や水を求めている人の絵がありました。私が一番ショックを受けたのはお母さんが子どもを抱いて立ったまま死んでいる絵です。今でも思い出すと心が痛く悲しいです。

続いて平和記念資料館の会議室で被爆者の講話を聞きまし

た。被爆後の人々の様子、体験をお話してもらいました。その人は助かりましたが、家族の方が被爆し、お姉さんの骨は見つからず、服を遺骨がわりにしているそうです。私たちのために辛いお話をいっしょに聞いてくださいました。

2日目に「原爆の子」の像に行きました。この像は佐々木禎子さんという女の子がわずか2才の時に被爆し12才で白血病で入院。お医者さんに鶴を千羽折れば病気が治ると言われ折り続けたがもう少しのところで亡くなり、その死をきっかけに禎子さんの友達が国内外の友達に支援を求め建設されたのが「原爆の子」の像です。私と同じ歳なんだ…これから楽しいことや色々な可能性がたくさん待っているのに無念だったと思います。千羽鶴の由来が佐々木禎子さんだったことを知りました。「原爆の子」の像に派遣団のみんなで作った千羽鶴をささげ祈りました。

次に原爆ドームを見学しました。それは原爆が投下される前「広島県産業奨励館」という建物で、広島の特産品などを展示したり色々な催し物が開かれていたようです。爆心地から160メートル先の立派な建物があんなにも骨組になってしまいうくらい原爆は恐ろしいと思いました。

私は戦争を知らない時代に生まれ育ったけど広島派遣団に参加して、その時代に起こった不幸で恐ろしい出来事の一部を知ることが出来ました。「戦争は二度と起きてほしくない。」私は広島に行き強く思い、今も願い続けています。

## 広島への思いの変化



青谷小学校 6年

尾 瀬 茉亜紗

私はもともと広島のことをなにも知らなかった。でも7月25日と26日にかけて、広島を見学した。25日は平和記念資料館を見学させていただいた。この記念資料館には、原爆のひがいにあった自転車やお弁当などさびびて、真黒になっていた。人は大ヤケド。目がとびだしたりこまくがやぶれたり。かみの毛が全部ぬけたりと人に害をあたえた。

1945年8月6日午前8時15分原子爆弾が広島になげこまれた。その爆弾が爆発した。その直後、光と共に大きな音がなった。大きな音のものは、大きな爆発だった。その爆発の熱風は6000度とも言われていた。熱風のせいで、物陰にいなかった人々は丸焦げになり、物陰にいた人も何年かすると、毛が抜け出したり、亡くなったりと人々を今も苦しめている。

68年前の広島は、川が多く1つの川が長く大きかった。今はコンクリートで少し幅が小さくなっていった。68年前の川に人が大量に浮いていた。あの大きな川をうめつくす量の人が亡くなった。火傷で苦しんだ人が川へ飛び込み、おなかは、はれつしたりふくれあがったり。川へ飛び込んだ人は全員死亡した。

核兵器は世界にまだ大量にある。その核兵器が無くならな

いかぎり広島での出来事が繰り返される。もう二度と繰り返してはいけない。私はそう思いながらこの作文を書きました。



## 広島に行つて



青谷小学校 6年

米田 綺良

私は、最初少しだけ不安な気持ちで参加しました。だけど、バスの中で友達としゃべったり、ビンゴゲームをしているうちに段々と広島に行くのが楽しみになっていきました。

最初に着いた場所は平和記念資料館でした。

資料館のある場所に原子爆弾が本当に落ちたのかと思うくらい綺麗な建物でおどろきました。資料館の中には、8時15分で止まった時計や黒こげになったお弁当箱などが展示しており、地下展示場にも原子爆弾が落ちた時の絵がたくさんありました。やはりこの場所ですごく悲しい出来事があったんだなあと感じました。

その後、被爆者の方の話聞きました。戦争は人の命、家、学校そして子どもや孫の時代の未来まで何もかも奪ってしまふものだと感じました。そんな原子爆弾や核兵器が世の中からなくなつてほしいと思いました。

その後は旅館に着き、みんなでお風呂に入つて夕食を食べ、ミーティングをしました。各自家から折つてきた千羽鶴を束ねて、一人ずつ今日の感想を言ったりしました。みんなの感想が聞けた事もよかつたと思いました。

2日目は広島平和記念公園に行きました。そこには原爆で亡くなった人の名前が入つてお花を捧げて祈りました。

次に原爆の子の像の所に行き持つてきた千羽鶴を捧げました。

次に原爆ドームに行きました。ガラス一枚もついていなくて、今にもつぶれそうでした。

又原爆のおそろしさを感じました。その後、爆心地の所へ行きましたがそこは爆心地と思えないほど普通に見えました。

お昼ご飯は班で広島焼きの体験をしました。

初めて広島焼き作りをして楽しかったです。

味もとてもおいしかったので家に帰ってから家族にも作つてあげようと思いました。

広島派遣団に参加し、わからなかった事や貴重な体験談、実際に見に行けて良かったです。戦争が二度とおこることがないような平和な世界になるようにと思います。今回引率していただいた市役所のみなさんありがとうございました。



## 広島派遣団に参加して



青谷小学校 6年

堀口蒼斗

ぼくは、広島派遣団の参加が決まっても楽しみでした。なぜかと言うとぼくは、広島に行くのが最初は旅行気分でした。しかしその日が近づいてくると、真けんに考えるようになりました。

当日広島に五時間かけて行きました。そして、ぼくは少し広島の原因のことを勉強してきました。なので、ぼくは原爆がどのような力を持っているのか、そしてなぜ原爆を広島に投下したのかを調べてきました。

平和記念資料館についてはじめに目に飛びこんできたのは、黒こげになった三輪車や弁当箱です。なぜかというのと、被爆した人達の苦しみや悲しみが伝わってくるからです。

それを見てぼくが思ったことは、「原爆はおそろしい。」という言葉がまっ先に頭の中に飛びこんできました。

このように、原爆のおそろしさ、力というものがわかりました。

そして、その後被爆体験者の方のお話を聞きました。その方は、無事に無傷でしたが、ほかの人達は、四百度以上の爆風で皮がただれ死んだ人やガラスのはへんが体じゅうにささって死んだ人。そして、家の下じきになって火事がおきて身動きがとれずそのままやけ死んだ人など、さまざまな人達

がさまざまな方法で亡くなっています。

そして、今でも、原爆の病になやんでいる人達がたくさんいるそうです。ぼくは、これを聞いて原爆は一度のしよげきだけではなく、二度のしよげきをもたらすという原爆のおそろしさをまた思いしらされました。

次の日は、慰霊碑に花をささげました。そして、原爆ドームを見た時、ほとんど骨組みでした。少ししよげき的でした。

ぼくが、広島に来ていろいろなことを学んで強く思うことは、「全世界から核爆弾と戦争が消える平和な世界」がおとずれてほしいと思っています。いつかその日がくることを願っています。





## 広島派遣団に参加して



今池小学校 6年

萩原 蓮太

ぼくの姉2人は広島派遣団に参加していましたが、ぼくは興味をもてませんでした。どうしても姉に「行ったほうが良い」と言われて、お母さんに参加させられました。

行ってみると、すごいためになる話があつて、行ってよかつたなあと思いました。

初めて会った人ともなかよくできたので、一石二鳥だと思います。

資料館で、被爆された人の話を聞きました。爆心地から1km以内だと、ほとんどの人の皮がはがれて、肉がずれおちて骨が見えるそうです。

8月6日は雲ひとつない青空、飛行機が飛んできても、日本の飛行機だと思つて、手をふつていたそうです。「ピカッ」となったときは、建物がなくなつていたそうです。

原爆ドームは、核爆弾が落ちても、くずれないのが、すごいと思ひました。

原爆ドームが世界遺産だったのは、びっくりでした。

広島風お好み焼きがすごくおいしかったです。

すごく良い、2日間を過ごしたなと思ひました。



## 戦争の恐ろしさと平和の大切さを知って



寺田小学校 6年

西 優 菜

戦争のことを何も知らずに広島へ行った私は、とても楽しいバスで違う学校の友達もできて心がウキウキしていました。

1日目の「平和記念資料館」では、とてもびっくりしました。そこには、8時15分で止まった時計や、黒コゲになったお弁当や、ぼろぼろでこげた三輪車が展示されていました。私が一番おどろいたのは、うでのひふがだらんとたれさがつていて、かみの毛は、ボサボサになっているゆうれいのような人形のも型でした。

「水をくれ。」

「お母ちゃんあついでよう。」

「だれか助けて。」

という声が聞こえてきました。それを聞いた時、心臓がドキドキして体中に鳥肌が立ちました。

「これは本当なのか。」

と思い、悲しい気持ちでいっぱいになりました。私は、なぜ同じ人間がこんなに悲しい戦争をして、人を殺すのだろうと思いました。それと真逆に今の日本は、とても平和だということが本当によく分かりました。そして平和の大切さを知りました。

2日目は、「広島平和記念公園」でお花を捧げました。「二度と戦争がおこらなくなりますように。そして、いつまでも平和な日本でありませうように。」

とお祈りをしました。そこには、たくさんのお花とお水がありました。原爆にあった人は、水をほしがって亡くなっていったからそうです。大やけどをして、つらかったらうなと思えました。

次にさだ子ちゃんの像の所へ行きました。そこには、千羽鶴がたくさんかざってありました。私も千羽鶴を捧げて、お祈りをしました。さだ子ちゃんは、私と同じ12才で死んでしまいました。小さい頃、原爆にあつて12才になって白血病になりました。さだ子ちゃんもみんなと同じように走りまわって遊ぶこともできなかったということがとてもかわいそうだなと思いました。

私は、今の生活がふうだと思つて生活しているけど、本当は、とっても幸せなんだということが分かりました。そして、この戦争や原爆の恐ろしさを伝えていって平和な世界になるといいなと思いました。



## 広島派遣団に参加して



寺田小学校 6年

福田 藍子

私が広島派遣団に参加した理由は友達がさそってくれたので参加しました。

広島にバスで行きました。広島に行くのに5時間かかりました。1日目のバスの中ではビンゴをしました。楽しかったです。

1945年8月6日広島はいつもとおなじ暑い夏でした。午前8時15分原子爆弾が広島に投下されました。

1日目広島に着いてはじめて行ったところは、平和記念資料館に行きました。資料館に入ってびっくりしました。爆弾がおちたときの広島を見てびっくりしました。たて物がつぶれていて木もたおれていてびっくりしました。ほかに真っ黒にこげたお弁当や8時15分でとまった時計などがかざってありました。つぎに地下で被爆者の人の話を聞きました。はじめに聞くことがいっぱいあって爆弾がおちたときはすごく大変だったということがわかりました。

資料館を出てバスにのって旅館に着いてお風呂に入りました。私は、F班だったからお風呂に入るのがさいごだったのでもうお風呂に入りました。お風呂をあがって、ごはんを食べました。おいしかったです。そのあと部屋にもどって折りづるをもつてちがう部屋で感想と折りづるをたばねました。お

わったら部屋に帰ってふとんをひいてみんなでおしゃべりしました。

2日目朝ごはんを食べてから平和記念公園に行きました。平和記念公園には慰霊碑や原爆の子の像、原爆ドームがありました。慰霊碑の所では花をささげました。原爆の子の像では、折りづるをささげました。原爆ドームは、きれいに写真をとれる所に行つて原爆ドームの写真をとったり、近くまで行つて見たりしました。あと国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にも行きました。

2日目の昼食は広島風お好み焼きを自分でつくって食べました。いままでとちがうつくつかただから少しむずかしかったです。けど、おいしかったです。

帰りもバスで帰りました。サーブエリアでおみやげをいっぱい買いました。びっくりしたのが2日目のサーブエリアがなんかいも行ったことがあるサーブエリアでした。

8月6日午前8時15分に心をこめてもくとうをしました。広島派遣団に参加してほんとうによかったです。



## 戦争のない社会にするために



寺田西小学校 6年

### 山下 征哉

僕たち、「城陽市広島派遣団」は、戦争や原爆について学びたいとの思いで、六十八年前の夏、人類初の核兵器が投下された広島に行きました。

長いバス旅を終え、まず、ここで見た光景は、色とりどりの花や青々とした葉をつけた木々が立っていました。戦後、焼け野原だった広島街は、うって変わって高層ビルの立ち並ぶ街になっていました。これがあの広島なのかと目を疑うほどでした。

その後、昼食をとり、「広島平和記念資料館」に行きました。ここでは、「八時十五分で止まった時計」「中身が真っ黒に焦げてしまった滋君の弁当箱」など多くの遺品が戦争の恐ろしさを物語っていました。罪の無い人間を死に至らしめる戦争は二度とごめんだと思いました。

僕は、戦争のない時代に生まれてきて、『平和』ということとを特に意識せず生活していますが、これこそが『平和』だと改めて感じ、尊いことだと思いました。

そして、この日最後の活動は講話を聴くことでした。戦争体験者の語り部さんは、その当時の様子を詳しく教えてくださいました。

語り部さんにとってはずららく、思い出したくない過去の出

来事だと思っています。戦争の悲惨さや恐ろしさは、体験した人しか分からないものでした。それを聴いた僕は、戦争は悲しみや苦しみしか生み出さないと思いました。せつかく聴いた話を無駄にすることなく、自分にできることは何かを考え、それを実行していきたいと思いました。

翌日は、「平和記念公園」を散策しながら見学しました。そこでは、戦争関連の建物や石碑がありました。

その中で一番印象的だったのが「原爆ドーム」です。爆心地から百六十メートルしか離れていない、まさに原爆の落ちた場所に立ちました。広島街や、また、そこに暮らす人々の生活が一瞬で破壊されたと思うと、原爆や戦争といったものがどれだけあってはならないものか分かりました。現在、世界には、核兵器を持つとうとする動きもあります。これからの社会に核兵器が決して存在してはいけないと思います。

ぼくは、この「城陽市広島派遣団」に参加し、戦争について、ほんの少しですが、知ることができました。この活動こそが、戦争のない社会につながっていく一歩だと思っています。だからこそ、この派遣団に参加した一人として、みんなに伝えていく役割があると思います。まずは、戦争体験者の語り部さんの思いをかみしめ、身近な人々から、平和について伝えていきたいと思っています。



## 広島派遣団に参加して



寺田南小学校 6年

後藤 美結

私は、行く前とてもひどい物だけしかないと思っていました。そして行くとき資料館にその時あった八時十五分まで止まった時計や黒こげになったお弁当やお弁当の写真などがあり私の心の中は、とても苦しくなりました。

その後被爆者の講話を聞きその内容は、晴れた日に原爆が落とされて「ピッカ」と光り、その時は、ほとんどの人が気をうしなうほどの光ですぐに爆発しいつきにたくさんの方が亡くなられたと聞き、何も関係ない人をまきこんでいたことがとてもかなしかったです。

生きていても放射線がいっぱいで今でも苦しんでいる人もいるし、さだ子ちゃんや千羽つるをいっしょうけんめいおつたけど亡くなってしまう、原爆の子の像の所に千羽つるをささげました。

そして原爆ドームを見ました。とても強そうな建物を一回の爆発でしたのは、すごい力だと思つて見たらすごく感じました。

爆心地にも行き、その時の写真はとてもめっちゃくちゃでした。けど、今の広島は大きい建物がたくさんあり、写真とはまったくちがいます。ここまでするのに大変だったやろうと思いましたが。

最後に広島焼きを食べました。広島焼きを自分で作るのをはじめだったのでドキドキしたけど広島の人から教えてくれたので、作ることができました。キャベツをいっぱい入れるのに、きじはうすい丸でぐちゃぐちゃにならへんのかなと思つていたけど、そばとたまごを入れると全然ばらにならなかったのでとても工夫された食べ物だと思いました。

食べたそばがおいしいかんじにパリパリになって上のキャベツにとってもあい、おいしかったです。また家に帰ったらやっほほしいなと思えました。

広島派遣団に入つて思つたことは、今平和はあたり前だと思つていたけどあたり前じゃなく、この時間一つ一つを大事にし、ぎせいになった人のことを考えてもう戦争や核兵器のない世界になつてほしいと思えました。



## 広島派遣団に参加して



寺田南小学校 6年

綱井 優芽香

私は五年生の時に、学校で「はだしのゲン」というアニメ映画を見ました。見終わって、戦争はともこわいものだと感じました。特に原爆が落とされた後のシーンが印象に残りました。いつか原爆が落とされた広島を見てみたいと思っていたので、今回広島派遣団に応募することにしました。

今の広島は「本当に原爆が落とされたのか」と思うほど、たくさん建物が建ち並び、とてもきれいな街になっています。しかし、資料館に行くと、原爆が落とされたときの広島は思っていたよりも悲しかったということがわかりました。

資料館には、真っ黒こげになった弁当箱、黒い雨のシミがついたカベ、やけどを負った人の写真などがありました。どれも目をそらしたくなるようなものばかりでした。私が一番印象に残ったのがひばくした人のもけいです。かみの毛はチリチリになり、皮ふもとけていました。辺りは火の海でまるで地獄のようでした。

ほかにも資料館には寄ぞうされたものがたくさんありました。これらを寄ぞうされた人たちは、私たちに戦争のおそろしさを知ってもらい、二度と戦争をしないで平和であってほしいと願って寄ぞうされたんだろうと思いました。

広島には資料館だけでなく原爆ドーム、原爆の子の像など戦争について知れる場所が他にもたくさんありました。原爆ドームは建物を見ただけで原爆のおそろしさを感じることができました。屋根はなく鉄骨だけになっていて、原爆が落とされる前とは大ちがいでした。

なにも知らずにいきなり原爆が落ちてきて辺りがいっしゅんで無残な姿に変わってしまう。もつと生きたかった人たちの命がいっしゅんでうばわれてしまう。生きのびた人たちも住む所、家族、友だちがうばわれてしまう。原爆は一発でたくさんひ害を出し、多くの人々をくるしめるともおそろしいものだと思えました。

私は広島派遣団に参加して戦争のおそろしさを、そして平和の大切さを学ぶことができました。だからこれからは私たちがそれを伝える番だと思えます。一人でも多くの人に戦争のおそろしさを知ってもらい、二度と戦争の起こらない平和な国になればいいと思います。そして日本だけでなく世界の人々にも伝えていき、今起きている戦争もなくなればいいなと思います。そして、今こうして幸せに生活できていることに感謝しようと思います。



## 戦争の恐ろしさ



寺田南小学校 6年

沼田 琉聖

ぼくは、はだしのゲンなどの、戦争にかんする本などは、何度も読んで、戦争のことについてはよくしっていたと思っていました。けどさすがに行ってみると、どれだけの人がなくなっているかなど、想ぞう以上でした。バスに乗って行った時は、まだましで、時間がたつにつれて、目的なども、わすれかけていました。ようち園の時の友達も来ていました。ひさびさにたくさん話していました。ビンゴなどもして、とても楽しい状態でした。

資料館につくと、むねやけと、腹痛がとまりませんでした。ガイドさんから、薬をもらって飲んだので楽になりました。いろいろと見てまわりました。すると、原爆のおそろしさや、八時十五分だとまっている時計などがあって、原爆のい力は、どれほどおそろしいかが分かりました。

爆だんが落ちた場所から、少し歩いたら、原爆ドームがありました。その中の人たちは、一人のこらずなくなっていました。原爆の恐ろしさはあらためてこわいと思いました。

いま、楽しく遊んだり、みんなとスポーツをできたり、昔、広島にいた人々は、原爆が落ちてからは、そういうことはできなかつたと思うと、ぼくはとっても幸せです。

友だちもうしなつた人もいれば、今も苦しんでいる人たちが

もいます。

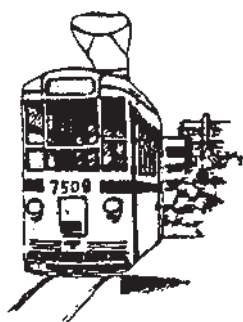
広島に原爆が落とされた後、長崎でも落とされました。何万人となくなっています。昔の人々は、国のために強くならうとか言いながらがんばっていました。

戦争をやっているときは、民家をつぶしていき、大きな大きな空地をつくっていました。火事になって燃えうつらないように。

戦争が始まると、関係ない人たちまで、みんながまきこまれて、たくさんの方がなくなつてとつてもかなしいです。

さだ子さんは12才でなくなりました。さだ子さんは入院している時、苦い薬を飲まず外にすっていました。そしてお医者さんに苦い薬を飲んでその紙でつるをおったら病気がなおると言われたので、毎日その苦い薬を飲んで、つるをおっていました。しかし、千羽以上おつても、12才でこの世をたびだちました。ぼくはすごくかわいそうだと思います。

ぼくはもう、戦争はなくなつてほしいと思います。



## 原爆のおそろしさ



寺田南小学校 6年

石塚 知帆

原子爆弾を落とされた広島は、原子爆弾の落とされた時を思いださない位、美しい場所でした。たくさん高いビルがたちならび、たくさん人もいて、笑い声も聞こえました。最初は原子爆弾のおそろしさがあまり分からなかった私。でも資料館へ行って、私はさっきとはちがう私になりました。資料館にはたくさんの方が展示してありました。1つ1つの物をていねいに見て、原爆のおそろしさを知る事ができました。資料館の中で私が印象に残ったのは2つあり、1つ目は8時15分だとまった時計。ほんのいっしゅんで、広島はおそろしい姿になったのがよく分かりました。2つ目は皮ふがたれさがった親子のもけいです。家に帰ってから新聞を読むと、原爆被害者は、「実際はあんな生あたたかいものではない。」といっているそうで、あのもけいよりおそろしいのは、想像もできない位おそろしいし、想像したくないと思いました。資料館からだと、私はもう絶望的で声もでませんでした。その後、被爆者講話で原子爆弾の事を話してくださいました。被爆した人達の中で「原爆を思い出したくない。」「いいたくない。」という人も少なくありません。被爆の話をしている時はむねが痛かったと思います。苦しかったと思います。でも私達のために話してくださいました。私はすごく感謝して

います。1日目、原爆のおそろしさ、私達が元気に暮らしているという、幸せさがよく分かりました。

2日目、原爆死没者慰霊碑に行って花をささげました。私は、ギョツと目をとじて「安らかにねむって下さい。このよいうな事は二度とおこしません。」と心の中でくり返しました。原爆死没者慰霊碑には、花だけでなく水もおいてありました。その後原爆の子の像に行って千羽鶴をささげました。そこがかねをならしました。爆心地は今も病院になっていて、そこから少しはなれた所に原爆ドームがありました。原爆ドームのガラスはみんな割れて骨組みだけになっていて、今もやつのことだたっていて、チョンとつつけばくずれてしまいそうでした。国立広島原爆死没者追悼平和祈念館のパソコンで、被害にあった人の話をきくとむねが痛く苦しくなって、「心臓がとまるんじゃないか。」と思いました。くわしく原爆について知る事ができました。

この2日間で、原爆のおそろしさ、1人1人の命の大切さ、私達が平和で暮らしている幸せさを学びました。次は私達が原爆のおそろしさを伝えていきます。





## 広島に行つて



寺田南小学校 6年

太田 悠貴

ぼくは広島のこととは、知っていたけど、この、広島派遣団で、広島のことをもっともっともつとわかりました。原爆ドームやさだ子さんの石像も活きいきしていました。

広島がかつて、荒れ地だと、思わせないぐらい、きれいでした。

8時15分で止まった時計も大迫力でした。

ぼくは思います。よく、あの原爆でつぶれなかったのは、キセキだと思えます。爆心地は、今は病院だったのが、ビックリしました。

ぼくは、バスの中で思いました。この原爆がなかったら、平和宣言はなかったかもしれない。今、日本に戦争があつたら、ぼくが兵士として、戦争に行つていたかもしれない。そう思うと、平和っていいなと思います。もう一度考えると、父や母が戦争に行つて、ぼくが生まれていないかもしれない。

被爆者の話を聞いているとあることが分かりました。今、その人がいるのは、キセキのキセキのキセキだということ。ぼくは、こう思いました。世界中が平和になり、あらそいのない世界をめざしています。

でも、それを実現できるのは、何年後でしょう。でも日本は、もう平和です。次は、他の国々が、平和宣言をしてくれ

たら、うれしいです。

今でも外国どうして戦争がおこなわれているかもしれない。だから、平和を当たり前と思わず、平和と言う言葉に感謝しないとだめだと思います。

広島平和記念資料館も、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館も、それを伝えるためにでき、より多くの人々に知ってもらうために、できたと思います。広島平和記念資料館にアメリカの人がきていました。遠くからきた人達も、たくさんのことを感じとってほしいと思いました。

被爆者の話も、ためになる話だったので。

ぼくは、初めており紙のつるを見たときふしぎでたまりませんでした。つるを千羽おつたら、病気が治るのは、いのる心が、こもっているのです。その力を信じています。

広島に行つて分かったこと、戦争と原爆のおそろしさ、原爆は、平気で数万人以上を殺し、生き延びても、食べ物やうばい合いに家がなく死んでいき一県を荒地と化し、また戦争は、罪のない人まで殺し小さいことがだんだん大きくなって、もう、手のつけようがなくなり、かぞえきれない数の人が、なくなりなにも残らない、それが戦争だと広島できづきました。これから、戦争しないように日本中で努力しないとけないと思います。



## 戦争と平和



寺田南小学校 6年

土居 千晴

広島に行く前は、テレビや本で戦争のことを知り、こわいものだと思っていました。

でも平和記念資料館で資料などを見ていたら私が想像していた戦争をはるかにこえるおそろしいものだと思いました。八月六日原爆が落とされたときの八時十五分でとまった時計、黒こげになったお弁当、おもわず目をそらしたくなるような写真。戦争のおそろしさがとても伝わってきました。でも私は実際、生きていなかったので本当にこわい思いやつらい思いをした人の気持ちは分からないなと思いました。

講話を聞いたとき、原爆が落とされた日だけでなく戦争中は、とても苦しい思いをしていたことが分かりました。そして当時は勉強できず、国のために働かなくてはいけないきびしい社会なんだと思いました。

平和記念公園では原爆の子の像につるをささげました。原爆が落とされてから十年もたっているのに病気になるなんて本当におそろしいものだなと思いました。そして今でも原爆によってたくさんの方が苦しんでいるということをはじめて知りました。

原爆ドームでは、れんががばらばらになって下に落ちていました。今は広島市はとてもきれいなのでここで実際、原爆

が落とされたなんて信じられませんでした。

私はこの二日間勉強して今、私たちが幸せであるということとを改めて感じました。お腹いっぱいご飯が食べられて家族といっしょに居られて学校へ行き勉強できて。でも、

「あの時代があったから今があるんだよ」

と体験者の人は話してくださいました。忘れたいくらいこわいけど人の体も心も傷つけた戦争は、けして忘れてはいけないことだと思いました。

これから少しずつでも世界の戦争がなくなり、平和になりますように…。



## 家族・世界・命



富野小学校 6年

為 房 宏 樹

家族は、大切です。でもこの家族をうばった原子爆弾。「リトル・ボーイ」この爆弾は、多くの放射能をふくむ1tもある爆弾です。この爆弾を知ったのは、平和記念資料館に展示してあるのを読んで、知りました。

ぼくは、よく妹とケンカをするので、家族の大切さを学びたくて、学校にはってあるポスターを思い出しこの「広島派遣団」に参加しました。以前から友達にさそわれていることもあって、参加しました。

城陽から広島まで片道5時間バスの中では、ビンゴゲームやおやつを食べたりして盛り上がっていました。

しかし平和記念館に着くと、その盛り上りはなくなり、きんちようが出てきました。中へ入ると一番目にとびこんできたのは、原爆が落ちる前と落ちたあとの模型でした。2つの模型は、まったくちがいました。

2階には、黒こげた弁当箱や爆風でつきささったガラスのはへん、爆風でおれまがった鉄のとびらなどがありました。その中で1番目にやきついていてるのは、被爆者の人形です。手を前にしながら歩いている3人の人形で、皮はたれ下がり体の肉が見えていて、「水…水」ときこえてきました。目をそらしたくなるようなほどこわかったです。中には、「きも

ちわる」とか「グロイ」とか言う人がいるかもしれません。でも被爆者の方は、そんなことを思っほしくないと思います。なぜなら被爆を体験していない人は、原爆のこわさがわからない。体験した人は、自分がそういう目に合っているからだと思います。

被爆者は、ケガしているとき「手を前に」とかいています。それには、こんな理由があります。みなさんは、こんな理由を考える人が多いと思います。「水をくれ…」ってことから手をさしだしていると、でも読んでわかりました。ケガをしている手は、ふつうに歩くと手と体があたりとても痛いから1番楽なしせいがこの「手を前にやる」しせいなのです。

2日目は、平和記念公園へ行きました。最初に原爆死没者慰霊碑へ行き花をささげました。

ささげるときにお願いしたのは「平和を心から願っています」です。

次に行ったのは、原爆の子の像のさださんの所です。さださんは、学校で見た、アニメの映像でりました。題名が「つるののって」です。2才の時に原爆にいました。像の近くのボックスの中には、全国各地から千羽づるがたくさんありました。

昼食は、京都じゃできない広島風おのみやきをつくって食べました。とってもおいしかったです。その店員さんと友達になれました。

この広島派遣団に参加してとてもよかったです。平和のことがすべてよかったしちがう学校の人も友達になれるし本当にありがたいと思いました。

## 広島・原爆の恐ろしさ



富野小学校 6年

市原 誠也

ぼくが広島派遣団に参加した理由は、戦争の事、原爆の事など、色々勉強したかったから、参加しました。参加出来たのは、とてもうれしいので、平和のことをしっかり勉強しようという気になりました。待ちきれませんでした。

最初に見学したのは、平和記念資料館でした。八時十五分でとまった時計・黒い弁当箱・さびこげた三輪車など色々かざってありました。

「こわっ」

「なんでこうなったん」

など同じ言葉しか言えませんでした。あとは写真、実物をさわったりして、戦争・原爆の恐ろしさが少しでもわかりました。原爆が落とされた時、きのこと雲・黒い雨、原爆が落ちたから、こんな事になるんだなど、広島で、分かりました。

次に資料館の地下展示場で火で燃えそうになる子どもたちや、火災からにげようとする人々、包たいでケガをなおす人たちが描かれていて戦争をやったら最後にはこんなことになるというのを見てきました。

一日目最後の見学は、原爆が落とされたとき体験した人の話を聞きました。八月六日は、中学生の人が大火事を防ぐための建物をつぶしたりして、片づけをしていたときに原

爆が落ちてきたそうです。とてもかわいそうだと思います。平和でいられることに感しゃするとか平和のことをずっと続けてくださいなど、平和のこと原爆のことを中心に話してくださいと思いました。こんなかなしい経験をしたんだなど、かなしく思いました。講話はとても心に残りました。

夕食を食べたあと、折りづるに、メッセージを書きました。これからも、平和であるようにとメッセージに願いをこめました。

2日目の朝は最初に慰霊碑の所で花をささげたり、爆心地の所で写真をとったり、折りづるをささげたりしました。全部見て、さらに、原爆の恐ろしさが伝わってきました。つるで、平和の文字が書いてあったり、地球の絵になっていたりしていました。

最後はパソコンで体験者の話を聞きました。ピカーと光つたらすぐに、町中がすごいことになっていたと聞いていたらとてもこわいと思いました。

広島風お好み焼体験をして、広島勉強は終わりました。お好み焼、おいしかったです。食べたり、話したりできることは、平和だと思います。幸せなことだと心の中で感じる事ができました。

原爆の恐ろしさ、町中の様子が伝わってきたので、それをみんなに伝えていきたいと思いました。これから、世界から戦争がなくなつて、毎日が平和でいられるように！



## 広島派遣団に参加して思った事



富野小学校 6年

新田 徹平

ぼくは、広島派遣団に参加する前までは戦争はこわいと思っていたけど、実際に写真で見た事もなかったからどうかわいか何がこわいかわかりませんでした。だから広島派遣団に参加して実物や広島の中の自分の目で見てみたかったです。戦争と平和についても知りたかったし勉強したいと思いました。

最初は平和記念資料館に行きました。中に入ると、とけて皮ふが焼けただれた人形や黒いつめ、こげた三輪車や一しゅんでたくさんさんの命をうばった爆弾などがたくさんありました。色々な物を見ていくうちに、ぼく達の生きている時代は平和で本当に幸せだと思いました。なぜ大人達は戦争をするんだらうと思えました。亡くなっていった子ども達には、僕たちと同じようにやりたい事や夢や未来があったはずなのに全部出来なくなってしまうとても悲しいと思います。

他にも原爆ドームや原爆死没者慰霊碑や国立広島原爆死没者追悼平和祈念館や色々な場所へ行ったけど、やっぱり戦争はこわいし必要ないと思いました。

広島に原爆が落ちて、このような悲しい事が絶対におこらないように、世界中の人達が考えないといけないと思います。今もどこかの国で戦争がおこっていると思うと悲しいし、



かわいそうだと思います。今の日本の国は平和で幸せだと感じる事ができました。こういう事も広島派遣団に参加してわかったから良かったです。またこのように機会があれば、自分から参加したいと思います。

## 広島派遣団に参加して



富野小学校 6年

島本 巧

ぼくがこの広島派遣団に参加しようと思った理由は、戦争や核兵器のおそろしさを知りたいと思ったからです。以前にぼくのお姉ちゃんもこの広島派遣団に参加しました。

広島には、5時間くらいかけて行きました。着いた時に初めて思ったのは、「広島町はとってもきれいなあ」ということです。本当に原爆が落とされたのかと思うくらいきれいでした。まず、ぼく達は、平和記念資料館に行きました。「8時15分で止まった時計」「人影の石」「爆弾リトルボーイ」などたくさん展示物がありました。特に印象に残ったのは、被爆された直後の親子の模型です。腕の皮膚がたれていて髪の毛はボサボサでとってもかわいそうでした。被爆体験者の方のお話では、現実では想像つかないことを話しておられました。きのこ雲から黒い雨や小学校のことを国民学校と呼ぶこと、初めて聞く言葉にとってもおどろきました。ぼくは、毎日ごはんを食べて小学校に通い、習い事の柔道ができることに、感謝しないといけないなあと思いました。

次の日、平和記念公園に行きました。最初に原爆死没者慰霊碑に花をささげました。次に原爆の子の像に折り鶴をささげました。たくさん折り鶴がありました。次に原爆ドームに行きました。原爆が落とされる前は、「広島県産業奨励館」

と呼ばれる広島の特産品などを展示していた所だったそうです。ぼくは、被爆して崩れた原爆ドームを見て、核兵器のおそろしさがよくわかりました。

ぼくは、この広島派遣団に参加して全てを壊す核兵器のおそろしさや戦争の怖さを改めて感じました。世界では、まだ戦争をしている国がたくさんあります。一日でも早く戦争がなく平和な世界になってほしいと思います。貴重な体験ができてよかったです。



## 戦争のおそろしさ



深谷小学校 6年

原口優花

私は、広島原爆について、学校で習っていましたが、もっと深く、くわしく知りたいと思い、この広島派遣団に参加しました。

まずは平和記念資料館に行きました。そこで目に止まったのは、黒こげの弁当、ひふがたれ下がっている模型など本当に恐ろしいものばかりでした。黒こげの弁当などはもちろん初めて見ました。この世界でそんな事がおこるのかと本当に信じられませんでした。ひふがたれさがっている模型の前を通る時は怖すぎて、友達と手をつないで通った事を覚えています。それは資料館でのほんの一部の話です。そんな恐ろしくて、こわい事が一しゅんでおこり、広島をこわしてしまっただと思うと本当に恐ろしく、戦争はおこしたくない物だしおこしてはいけないと思えました。

次の日は、記念公園を見学しました。そして「広島二中原爆慰霊碑」を見て手を合わせました。これは、その当時中学生だった人がひばくした事をあらわす慰霊碑です。中学生はほとんどが亡くなり、残ったのは本当にわずかだったそうです。私はそれを聞いた時、本当にショックでした。私はいま小学六年です。もうすぐで楽しい中学生です。その楽しい中学生生活が一しゅんにしてつぶれるなんて恐ろしくて、

なかなか受け入れられなかったです。その後、折鶴を捧げに原爆の子の像に行きました。そこには、数えきれないぐらいたくさん折鶴がありました。英語でメッセージが書かれたものもあり、私は、

「世界中のみんなが強く平和を願っている」と、確信しました。そして、きのうミーティングでたばねた、鶴をささげました。

亡くなった人の中にはまだ分かっていない人もいます。そして、亡くなった一人一人に、夢があったと思います。原爆は一しゅんで人の夢、なにかもをうばってしまう本当に恐ろしいものです。今、私たちに服がある事、勉強ができる事、そして夢を持てる事にも感謝しないとイケないと思います。その事を分かったからこそ、これからの一日一日を大切に生きていきたいです。そして、世界中の国から戦争がなくなりますように。



## 広島に行つて



深谷小学校 6年

高木杏菜

私は、7月25日・26日に広島派遣団として広島に行きました。原爆ドームや、平和記念資料館、原爆体験者の話も聞かせていただきました。

それらの体験を通して思った事があります。戦争はとてもおそろしい事だ、あつてはいけない事だ。そして今の私達の当たり前の生活は、どれだけ幸せであるのか、と。家があつて、食べ物もあつて、服にも困るわけではない。暑い時は、エアコンだつて使えるし、寒い時は、ストーブをつけて温まる事だつて出来る。そんなとても幸せな時代に生まれる事が出来て、本当に私達は幸せ者なんだと改めて感じる事が出来ました。そこから私は思いました。戦争のおそろしさや、こわさをたくさんの人々に伝えていけば、この世は、もっと平和を築いていけるのではないかと。理由は、戦争のおそろしさやこわさを知れば、今の生活がどれだけ幸せで、ありがたい事なのか、伝わると思うからです。実際、私もこの広島派遣団に参加して、そのような事を思いました。私は、できるだけたくさんの人に幸せを感じてほしいのです。今のとてもめぐまれている生活を、当たり前という風にあまり思つてほしくないのです。いいえ、絶対思つてほしくありません。だから私は、戦争のおそろしさやこわさを、たくさんの人々

に伝えていきます。でも私は、まだまだ子どもだし、伝えられるはんいだつて、ほんの少しだけしかありません。なので、たくさん大人の友達にも手伝ってもらえる事が出来たらなと思つています。この私の作文を読んでいただいた人達が、戦争のおそろしさを知つて、今の生活を幸せと感じてもらえたらなと思つています。さらに、身近な所だけでも、戦争のおそろしさというのを伝えていただく事が出来れば、本当にいいなと思つています。

今の生活は、本当にじゅうぶんすぎるほど幸せなのです。それをたくさんの人々に伝えていきたいです。今の生活のありがたさを感じてほしいです。たくさんの人々が感謝の気持ちでいっぱいになりますように。





## 広島派遣団に参加して感じたこと



深谷小学校 6年

### 三崎 小奈津

私が広島派遣団に参加した理由は、本当の戦争の恐ろしさを知りたかったし、原爆ドームに興味があったからです。

今の広島は、大きなビルが建ち並び、道路には、路面電車が走っていました。原爆が落とされ、火の海だったとは思えないほど、緑もたくさんあり、にぎやかな町でした。

そんな町の中、私達は最初に、「広島平和記念資料館」に行きました。そこには、原子爆弾によって、「8時15分で止まった時計」「黒こげた弁当箱」「原子爆弾の模型」などが、当時のまま展示されていました。一番印象に残ったのは、火の中を親と子が悲惨な姿で歩いているような模型です。被爆した人々が、どんなに熱く、痛く、苦しかったのだろうと考えると、思わず目をそむけなくなるほどの恐ろしさでした。その他にも、原爆でやけどをした女性の写真や、爆風でおおされた家の写真などもありました。資料館には、戦争や原爆のおそろしさがひしひしと伝わってくるものが、たくさん展示されていました。「二度とこのようなことを起こしてほしくない。」と、うったえかけているようでした。

次に、被爆体験をされた方の話を聞きました。その話の中で、原爆の本当のおそろしさが分かりました。一瞬のうちに家や建物が破かいされ、爆風で窓ガラスが割れ、ガラスの破

片が体中にささる人。また、家や建物の下じきになって、そのまま死んでいく人。聞いていて、だんだん恐怖と悲しみでむねがいっぱいになっていきました。子どもから、大人までの、命の尊さ、大切さがこの一日で分かった気がしました。

二日目は、原爆で亡くなった人の慰霊碑を見た後、原爆ドームを見に行きました。原爆ドームは、広島町のちがって悲惨な姿でした。原爆投下後の原爆ドームは、かべがほとんどこわれ、上の丸い屋根は骨組みの鉄骨だけでした。立派な建物でも、一つの爆弾でこんなに変わるものなんだと、原子爆弾のおそろしさを感じました。

戦争や原爆は、人の命をたくさんうばい、人の心を深く傷つけます。何のために、罪のない人まで殺すのだろうと思うと、悲しくなりました。平和とは、そのような世界中の戦争が無くなり、人々が幸せで安全に、暮らせることだと思えます。そのような平和を目指して、小さな争いをなくしたり、困っている人を助けるなど、身近なところから努力していきたいです。

戦争のおそろしさについて勉強したり、世界のことをいろいろ知って、私が望むような平和な世界にしていきたいです。そして、一刻も早く、「核兵器」という恐ろしい武器をなくしてほしいと、私は願います。



## 戦争・核兵器のおそろしさ



深谷小学校 6年

松尾夏歩

私が広島派遣団に参加した理由は、学校でこの企画を知り、興味を持ったからです。私は少しくらいなら広島であったことを知っているつもりでした。しかし、今回広島に行つて、私が思っていた以上の戦争のおそろしさを知りました。

私が特に、そのおそろしさを知れたのは、平和資料館です。そこには、八時十五分で止まったうで時計・黒こげになった弁当箱・ポロポロになった学生服など…。核兵器のおそろしさが、私でもわかりました。本当に見るのもつらい物もありました。今思い出すだけでもとてもつらいような物ばかりです。その、原子爆弾が落とされた時の広島は、建物はほとんどこわれていて、原子爆弾が一瞬にしてそんな光景にしたのだと思うととてもおそろしいです。そこで私は気付いたことが3つあります。

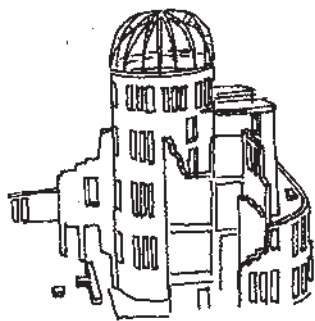
一つ目は、今の私達は六十八年間戦争をせず、とても平和に暮らせているんだという、うれしさ、平和のありがたさ、私達はとても幸せだということ。

二つ目は、一瞬にしてあんな光景にしてしまう戦争・核兵器のおそろしさ、こわさ。

三つ目は、その被害にあった被爆者の方達は本当につらかったんだと、光景からも、わかるほどのおそろしさ。

私は、この三つを今回、平和記念資料館に行つて気付きました。

私は、広島派遣団に行く前にも学校で平和について勉強をしました。原爆ドームについての勉強です。そこで、爆弾が落とされたとき、爆心地から約百六十メートルだったが、今の形のような原爆ドームが残ったこと。原爆ドームを保存するか、取りこわすかで議論が続いたことを知りました。しかし、私はもつと、とてもない被害だったことを知りました。六十八年前の出来事は、本当につらかったと思います。しかし、このことを伝えていくことで戦争はなくなっていくことを、私は信じています。私には、今回学んだことを伝えていく義務があるので伝えていきたいです。私は、戦争がなくなつてほしいと願つてますので、私にできる戦争をなくす努力をしていきたいです。



## 派遣団に参加して



古川小学校 6年

服部 亜美

私が派遣団に参加した理由は、友達にさそわれたのと、核兵器の事をもっと知りたかったからです。私達はまず、平和記念資料館に行きました。

そこでは、被爆した方の持ち物や、8時15分で止まった時計など、イメージと異なっていました。次に被爆した方の講話を聞かせてもらいました。講話では、その時の状況や、人の様子など、色々な事を学ばせてもらいました。そして、泊まる旅館に着き、部屋に入りました。そして、1日目は終わりました。

2日目は、慰霊碑に行って、花を捧げました。次に、原爆の子の像に行きました。ここは前から、テレビなどで見た事があったのですが、実際に行ってみると、すごい数の折りづるがありました。次に原爆ドームに行きました。近くで見ると本当にはく力がありました。あと、原爆ドームは被爆する前は、色々な物を展示していたという事をバスガイドさんに教えてもらいました。私は原爆ドームの事もよく知らなかったもので、びっくりしました。そして爆心地へ行きました。私はどんな所か、全然予想がつかせませんでした。でも着いてみると思ったより、ふつうの所で、それを見て、原爆が投下さ

れた時も、こんな風にふつうの町だった所だったのかなと思えました。次に、追悼平和祈念館へ行きました。そこには、360°広島町の町が見れる部屋や、本や指で操作できるパソコンなどで、戦争や原爆の事が学べる部屋などがありました。

私はこの2日間を通して、今、私達がふつうに生きているのは、戦争が無いからだと思います。そして、苦しい思いのまま、亡くなっていった人達がどんな思いで亡くなったのかなと思えました。そして、原爆を投下したB-29を、被爆された方は、どんな風に思っているのかなと思えました。私は本当に、戦争も原爆もとても怖いものだと思います。そして、もう二度とこんな事になってはいけないと思うし、この出来事を忘れてはいけないと思えました。



## 広島に行つて



古川小学校 6年

有田 美結

私が広島派遣団に応募した理由は、以前本で戦争の話を読んだことがあり、興味があつたからです。

広島に到着し、まず平和記念資料館に行きました。平和記念資料館の中に入ると、バスではにぎやかだつた雰囲気も一変し、急に静かに、そしてしずんだ暗い空気になりました。理由は、広島に原爆がおちた後の光景や、本物の馬の死体、まっ黒なお弁当箱など、『私達が生きている世界でこんな事が本当にあつたのか。』と思わず考えてしまうような物がたくさんあつたからです。次に資料館地下展示場に行き、はだしのゲンの原作を見たりしました。はだしのゲンを読んで私は、原爆は体をめちやくちやにするという事を知りました。

その後、被爆体験者の方にお話をうかがいました。そのお話を聞き、昭和二十年（一九四五年）八月六日にあつた、悲さんな出来事をたくさん知りました。戦争の話をしてくださつた方が私たちにこうおっしゃいました。

「私達は、忠実に守り、忠実に従つていただけ。」と。そして、私達には、そうなつてほしくない。私はこの意味を考え、話をしてくださつた方の気持ちも考え、そうならないようにしたいと思ひました。ここで一日目の、「平和学習」は終わりました。世羅別館という旅館に行き、夜それぞれが持つて

きた折りづるを束ね、リボンにメッセージを書きました。私達の班は、「戦争の悲さんさを伝えて行きます。」と書きましました。理由は、一日目に学んだ事で知っておかないといけないことや、これからも、もつとたくさん知りたいと思つたからです。なので、いろいろな人に自分達が知つたことを伝えたい、伝えようと考えたからです。

そして二日目、私達は原爆死没者慰霊碑で花を捧げた後、広島第二中学校原爆慰霊碑へ行きました。その石に広島第二中学校と入れたかつたのだという事を聞きました。だけど戦争でけがをしたりするのは、はじだ！と言われていたので名前を入れられなかつたそうです。原爆の子の像へ折りづるを持って行きました。そして、それぞれの班の分と学校や公共施設等で折られたつるを捧げました。そこには、日本だけではなく、世界各国からのつるが捧げられていました。これを見て、戦争がこれからは減っていくと私は思ひました。原爆ドームと爆心地、そして国立広島原爆死没者追悼平和祈念館にも行きました。爆心地には病院がありました。祈念館では、被爆者が書かれた話等を読みました。

私は、広島派遣団に参加して、いろいろな事を学びました。そして、お話を聞き、私達が知つている事は、ほんの一部だという事も、分かりました。なので、これからも戦争について、できるだけ多くのことを知りたいし、できるだけ多くの人に少しでもいいので、戦争のことを伝えたいと思ひます。



## 広島派遣団に参加して



西城陽中学校 1年

板坂 輝

僕は、母親に勧められて参加した。広島から帰ったとき、参加して良かったなど感じた。今回、広島で感じたことは三つある。

一つ目は、戦争の悲惨さと過ちだ。人と人は、なぜ争うのか。戦争の後に何が残るのだろうか。原爆が落とされ、戦争が終結した後日本はアメリカに占領された。しかし、アメリカに利益はあったのだろうか。どの国も人口は減少し、国家の財政は悪化していただろう。戦争は国を破壊し、人の心と身を傷付けるのだ。まして原爆などもつてのほかである。原子力は人間が発見したものだ。もし、発見した人が兵器として使われていることを知ったらどう思うだろうか。もっと平和的に使ってほしいと思うはずだ。

二つ目は、平和のありがたさだ。今、僕達は何不自由なく、好きな物を食べ、欲しい物は何でも買ってもらえる、豊かな生活をしている。戦時中は、真逆だった。今の生活のありがたさ、普通にこうして生きていることのありがたみを知らない人は多い。戦争を経験し、乗り越えてきた人々のおかげで我々の平和な暮らしは保たれているのだ。この事を忘れてはいけない。

三つ目は、戦争の悲惨さを後世に伝えていく義務があると

いうこと。桃太郎や一寸法師などのおとぎ話は昔から現代まで伝えられ、親しまれてきた。戦争の悲惨さを後世に伝え、受けついでいかなければいけないのだ。これは、僕達の義務であるし、これから生まれる子孫達の義務でもある。先祖が伝えてきた事をまた、次の世代に受けつぐ、これを永遠につづけていくのだ。

今回、広島で僕が見たものは、ほんの一部かも知れない。でも、そのほんの一部をきっかけとして戦争をもっと知りたいたいと思うようになった。僕は義務を果たすためにもっと戦争の事について知りたいと改めて思った。



## 広島から世界へ平和に願いを



南城陽中学校 2年

宮崎 風花

私は、広島に行く事が出来て本当に良かったと思います。何故なら、広島に行き、被爆体験者の講話を聞いたり、平和記念資料館や追悼平和祈念館などで写真や展示物などから本当の戦争の恐ろしさが分かったからです。戦争は、何も悪く無い子どもや赤ちゃん、もし戦争が無かったら産まれてきていたかもしれない命までもを、無惨にも奪い捨て、原子爆弾までもを投下し、とても多くの命を奪う物です。そして、原子爆弾は、いくつもの奇跡や偶然が重なり合わなければ生きて行く事が出来ない、という事をこの小中学生広島派遣団で知ることが出来ました。

私は、被爆体験者の人からの講話を聞いてとても心に残ったことがあります。それは、「被爆者で本当に死ぬような地獄を知る者はもうこの世にはいない」という事です。私はこの事を聞いて、とても悲しかったし、本当の原子爆弾の恐ろしさが感じられました。そして、もう、このような恐ろしい戦争を繰り返してはいけないと強く思いました。

今、日本はもう、戦争はしていません。しかし、まだ戦争をしている国は沢山あるし、日本も一歩間違えば戦争になるかもしれません。そして核戦争がおこってしまったら、また同じあやまち、同じ悲劇を繰り返すだけでなくにも良い事は無

いと思います。

人にはどうすることもできない感情がありそれは、争いにつながることもあります。しかし、広い心をもって争いをなくし戦争という手段としてではなく話し合いなどの平和な解決手段で戦争をなくしていかなくてはならないと思います。

広島に行き、多くのことを知ることが出来て、たくさん感じるがありました。そして、あらためて戦争はけつして繰り返してはいけないと思い、戦争は繰り返してはいけないということを広島に行った私達や原子爆弾の恐ろしさを知る広島から世界へと伝えていかななくてはと強く感じました。



## 広島派遣団に参加して

南城陽中学校 2年

山内実咲



私が「平和のための小中学生広島派遣団」に行こうと思った理由は、授業でも広島県の事は習っていて習った事が原爆の全てだと私が勘違いしていたのと教育実習の先生に勧められたので行こうと思いました。

広島に入ると68年前に原子爆弾が投下されたとは思えないぐらいビルが建ち並び町には一つもゴミが落ちていなかったです。

私が一番印象に残ったのが被爆者の講話です。被爆者の講話は、

「貴重な体験が出来たな」

と思っています。

私達と同じ中学生でも「工場で働け。」っていう命令があったり兵隊の食料や服を作るのが中学生だったりしていたそうです。戦争に出れるのが男だけでその時の女学生が「戦争に出れなくて残念。」って思うのに衝撃を受けました。今の中学生なら「えー。嫌ー。」ってなるはずなのに、国のために役に立ちたい気持ちがあると思うと、学校とかで戦争は悪いものではなく良いものと教えられていたのも衝撃を受けました。戦争をしている時、国民は皆まずしい生活を送っていました。戦争の被害だけでなく、食料がなくなつて餓死をした

り水に溺れて水死をしたりしていました。そんな中でも被爆者が通っていた女学校では建物疎開の片づけにいったそうです。家を壊すのは国の命令でもし火災があった時にすぐくひるがらないようにするための建物疎開だそうです。68年前の子どもたちは「敵兵につかまったら恥。」と思っていて全然贅沢出来なくても、「ほしがりません勝つまでは」があつて、今は普通に暮らしても68年前の人々にはめっちゃ贅沢しているように見えるんだと思いました。8月6日午前8時15分に原子爆弾が投下された時に自分の身の守り方は親指を耳に入れて残った4本の指で目を押さえてできるだけ低い姿勢をとるらしいのですが火傷とかするかもしれない気がします。

私が最も衝撃を受けたのは、被爆者の方が避難している時自分達の家に帰るってことになって歩いて帰る時市内を歩いていたら死体が転がってたのに何をみても何も思わない。人間とは呼べなくなっていたに似てたそうです。14歳から81歳までの記憶が全部覚えてるぐらい悲痛な経験があつたんだなと思っています。

今、原子爆弾が落ちた時の被爆者で自分が体験した事を言ってくれる人が減ってきていて原子爆弾を忘れかけてると思うので本当に日本であつた事だから目をそむけないで聞いた方が良いと思います。

